



るうてる



2015年
4月
No.808

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区山谷砂土坂町1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <http://www.jelc.or.jp>
■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp
■発行人 ■ 安井宣生 koho06@jelc.or.jp
■印刷 ■ 精文堂印刷株式会社
■定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)
■振替口座 ■ 00190-7-71734

説教 「神の新しいさで」 九州学院チャプレン 小副川幸孝

安息日が終わると、マガダラのマリヤ、ヤコブの母マリヤ、サロメは、イエスに油を塗りに行くために香料を買った。そして、週の初めの日の朝早く、日が出るとすぐ墓に行った。彼女たちは、「だれが墓の入り口からあの石を転がしてくれようか」と話し合っていた。ところが、目を上げて見ると、石は既にわきへ転がしてあった。石は非常に大きかったのである。墓の中に入ると、白い長い衣を着た若者が右手に座っているのが見えたので、婦人たちはひどく驚いた。若者は言った。「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あなた方は復活なさって、ここにはおられない。御覧なさい。お願ひした場所である。さあ、行って、弟子たちとベトロに告げなさい。『あなたたちは墓を出て逃げ去った。震え上がり、正気を失っていた。そして、だれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである。』」

(マルコによる福音書16章1-8節)

主イエス・キリストの復活を喜び、祝うことができず、心から嬉しく思っています。復活は、新しい生命の始まりであり、キリストの復活を祝うことは、私たち自身が新しい希望をもって生きることを意味しています。イエスの復活は、私たちに「神の新しいさ」が与えられて、その「神の新しいさ」の中で生きることができるといふことなのです。

聖書が伝えるイエス・キリストの復活の出来事に、私たちが閉じ込められて、そんな状態が、ふさぐ大きな口です。現代人の多くは、未来の展望がない閉塞感を感じながら生きています。まことに「大きな石でふさがれている状態」といつてもいいかもしれません。ところが、行ってみるの日の朝には転がされていきました。キリストのもとに行く者に、その石は取り除かれ、入り口は開いていたのです。このことは重要な復活のメッセージです。キリストのもとに行く者には、その石が取り除かれ、入り口は開いている。復活の朝の出来事を伝える共観福音書は、こそ、このことを伝えてくれます。



「入り口をふさぐ大きな口です。現代人の多くは、未来の展望がない閉塞感を感じながら生きています。まことに「大きな石でふさがれている状態」といつてもいいかもしれません。ところが、行ってみるの日の朝には転がされていきました。キリストのもとに行く者に、その石は取り除かれ、入り口は開いていたのです。このことは重要な復活のメッセージです。キリストのもとに行く者には、その石が取り除かれ、入り口は開いている。復活の朝の出来事を伝える共観福音書は、こそ、このことを伝えてくれます。」



油が無駄になり、墓には何もなく、空虚でした。これは、「空しさ」そのものでもありません。それは、私たちの人生の根幹に関わることです。

人生は徒勞の連続であり、生きる意味や充実感もなく、空しくさびしい。私たちは、ずいぶんそんな思いで生きています。一所懸命準備したことが無駄に終わり、何の意味もなく。私たちは、自分の日常でも、そのことを度々経験しますし、どんなにがんばっても、どうせ老いてやがてひとりりで寂しく孤独のうちに死ぬだけではないかという暗い不安に襲われたりもします。人生は徒勞の連続で、空しい。私たちの心の奥底にはそういう思いが常に潜んでいます。空しさは絶望につながります。

聖書が伝える「無駄に終わった香油」や「空の墓」は、そうした空しさと絶望の象徴です。言うまでもなく、「墓」は、絶望と死そのものに他なりません。しかし、この復活の朝、空しさと絶望の空の墓の中で途方に暮れている婦人たちに、神の言葉が伝えられます。そして、キリストの復活が告知されるのです。それはまさに「新しい朝」なのです。

言い換えれば、私たちが自分の人生の中で求めているものは、絶望と死の中にあるのではない、ということなのです。つまり、神の告知を聞き、復活を信じる者は、自分の人生が、どんなに苦勞が多くても、絶望と死のうちに終わらないのです。復活を信じる者は、自分の心の奥底にある空しい思いや絶望的な思いの代わりに、キリストの復活を置くことができる。どんなに徒勞や空しさが襲ってきてても、私たちは神の復活の強さで生きることができるといふのです。復活の出来事を伝える聖書の言葉は、そのようなことに満ちているのです。ですから、イエス・キリストの復活を祝う私たちが、自分の中にあるどうしようもないことや暗いことをキリストの復活に置き換えて、神の復活の力、「神の新しいさ」で生きていきましょう。

争いから交わりへ

2017年にルーテル教会とカトリック教会が共同して「宗教改革500周年」を記念する意義に加えて、両教会の公式の宗教改革理解を語る。

教文館発行
B6判 220頁
1296円(税込)

お申し込みは、
日本福音ルーテル教会事務局へ
03(3260)8631

ブラジル宣教50周年記念 訪問団参加者募集

サンパウロで守られるブラジル宣教50周年記念礼拝、そして交流のために訪問団を派遣します。ご参加をお待ちしています。詳細は次号に掲載します。

■日時: 2015年10月9日(金)~21日(水)
■訪問先: サンパウロ、リオデジャネイロ、ホルトアレグレ、イタチ、イヴォチネホカ。(オプション: イグアスの滝)
■募集人員: 25名
■団長: 大柴謙治 (総会副議長・世界宣教委員長)
■費用: およそ43万円(オプションは別)

宗教改革500年に向けて
ルターの意義を改めて考える(36)
ルター研究所所長 鈴木浩

ルターがアウグスティヌスの原罪論を強化して、原罪論にあった曖昧さを決定的に決別し、「自由意志などは、真つ赤な嘘、単なるフィクション」と言い放つたことが、「信仰のみによる義認」の出発点であった。無論、ここでもルターの発言の前提は、「神の前で」というあの座標軸である。

ルターがアウグスティヌスの原罪論を強化して、原罪論にあつた曖昧さを決定的に決別し、「自由意志などは、真つ赤な嘘、単なるフィクション」と言い放つたことが、「信仰のみによる義認」の出発点であった。無論、ここでもルターの発言の前提は、「神の前で」というあの座標軸である。

ルターがアウグスティヌスの原罪論を強化して、原罪論にあつた曖昧さを決定的に決別し、「自由意志などは、真つ赤な嘘、単なるフィクション」と言い放つたことが、「信仰のみによる義認」の出発点であった。無論、ここでもルターの発言の前提は、「神の前で」というあの座標軸である。

ルターがアウグスティヌスの原罪論を強化して、原罪論にあつた曖昧さを決定的に決別し、「自由意志などは、真つ赤な嘘、単なるフィクション」と言い放つたことが、「信仰のみによる義認」の出発点であった。無論、ここでもルターの発言の前提は、「神の前で」というあの座標軸である。

ルターがアウグスティヌスの原罪論を強化して、原罪論にあつた曖昧さを決定的に決別し、「自由意志などは、真つ赤な嘘、単なるフィクション」と言い放つたことが、「信仰のみによる義認」の出発点であった。無論、ここでもルターの発言の前提は、「神の前で」というあの座標軸である。



議長室から

3月には5人の牧師が定年をお迎えになりました。それぞれの説教が機関紙「いのり」に連続して掲載されましたので、毎回楽しみにして読ませていただきました。これまでもお働きや辿り着いた福

りの説教や挨拶を読む際に、私にとって一番気がかりなことは、牧師の職務に感謝をもって終えられたのかどうかということだと思います。お働きの内容、奉職の年月が異なったことは当然ですが、神様への感

謝、教会や関連施設や園へのお礼、心待ちにされていたこと、牧師の職務、働きは多様です。若い牧師たちゆえに様々な働きへの期待も大きいこと、そして、ただ、最も重要な牧師の働きは

み言葉を宣教し、聖礼典を執り行うことです。按手式の説教で申し上げたことですが、特に新任牧師の数年間、説教作成、聖書会などの準備には時間と労力を必要とするものです。本人の努力と心構えは当然のことですが、適切な備えの時間を確保するため、信徒の皆様のご協力と励ましをいただければ幸いです。

「いのり」について
プロジェクト3・11より
いわき食品放射能計測所



感謝をもって始め、そして終える

総会議長 立山忠浩

4月は教会にとりましても人事異動の季節です。私ごとになりますが、東京池袋教会での21年間の働きが終わり、この4月から都南教会でご奉仕させていただきます。感謝をもって前任教会の働きを終えられ、そしてまた感謝をもって新たな教会の働きへ赴けることを喜んでいきます。

音理解がよく伝わって来るようでした。長年の良きご奉仕、本当にお疲れ様でしたという思いを新たにしました。

3月に定年をお迎えになる牧師が毎年いらつしやるわけですが、締めくく

謝、教会や関連施設や園への感謝は同じであって欲しいのです。同様に、奉仕された教会や関係者の感謝をもって退任されたことをただ願うのです。今年もそれぞれの牧師から感謝を込めた言葉を

や関係施設の方々には着任を心待ちにされていたこと、牧師の職務、働きは多様です。若い牧師たちゆえに様々な働きへの期待も大きいこと、そして、ただ、最も重要な牧師の働きは

不安に寄り添う。
この地で生きていくこと、収穫された作物を食べること、子ども達を外で遊ばせること、その成長のこと、健康のこと、そのひとつひとつに対して、深い不安を抱え続けています。そして、その不安のひとつを口にすることさえ、家族の口にするにさえ、家族の中に溝を生じさせることになりかねず、ためらわねばならない辛さがあります。見えず、匂いもしないものに壊され続ける恐怖と痛み、そして深刻な分断。それが、東日本大震災により引き起こされた原子力発電所事故がもたらしたことであり、4年という時間の経過も、未だ不安の軽減とはならない厳しい現実です。

プロジェクト3・11
企画委員 安井富生

「いのり」を立ち上げ運営している。震災発生から早い時期のこと、福島で三世代が同居する家族で祖父が作った作物を、食卓においてその孫にあたる自分の子どもたちに食べさせることへの不安を抱える母親がいました。心配はないとマスコミも地元生産者も報告していると言う義父に対し、母親は不安を口にすることができません。その

九州教区「礼拝と音楽講習会」

九州教区教育部長 立野泰博

九州教区では隔年で、「教会学校研修会」と「礼拝と音楽講習会」を行ってきました。今年も「礼拝と音楽講習会」の年でした。2月11日午後1時より、日本福音ルーテル博多教会のオーバーホールで演奏されたパイオルガンの演奏で講習会がはじまりました。

九州教区では隔年で、「教会学校研修会」と「礼拝と音楽講習会」を行ってきました。今年も「礼拝と音楽講習会」の年でした。2月11日午後1時より、日本福音ルーテル博多教会のオーバーホールで演奏されたパイオルガンの演奏で講習会がはじまりました。

九州教区ではこれまでも式文の学びをしてきました。しかし、とても難しい話という印象でした。また現在作業が進んでいる式文の改訂についても混乱があり、「新式文」「改訂新式文」「新改訂式文」等など受け取り方が様々でした。

松本牧師は「礼拝よもやまばなし、式文うらばなし」と題して、「宗教改革ま

「とつつきにくい式文が興味あるものとなった」「式文の意義がよくわかった」「はじめて式文の神学が学べた」というものでした。参加者は九州各地から46名、宮崎から飛行機で参加された方もありました。ただし、改訂新式文の内容についてまでは話がいか

九州教区では7月に教区主催で改訂新式文についての学びを行う予定です。次期総会では

今回のテーマは「礼拝式文を学ぼう」でした。講師として、式文委員会の松本

松本牧師は「礼拝よもやまばなし、式文うらばなし」と題して、「宗教改革ま

参加者の感想からは

九州教区では7月に教区主催で改訂新式文についての学びを行う予定です。次期総会では



「東北へルプ」と「いわきキリスト教連合震災復興支援ネットワーク」が協力



いわき食品放射能計測所「いのり」が設置されている常盤教会。会堂右の平屋が計測所。

礼拝式文の改訂



ランケットO&A

(その1)

式文委員 松本義宣

前号で紹介したランケット

トで頂いたご質問やご意見に、限られた紙面ですがお答えいたします。ただその前に、これまでご紹介した

試案の基本的なコンセプトを改めて整理します。幾つかの不明点やなんとなくの「もやもや感」の払拭に繋がれば幸いです。

全体の構成が「招き」「みことば」「聖餐」「派遣」となったこと、これは初代教会以来の基本構成で、エキムニカルな視点でもその長短や強調点の違いや内容の濃淡は別にして、共有されているものです。ことに私たちルター派として、宗教改革の基本理念たる「礼拝は神の業」、人が神に奉仕するのではなく、ま

語です。つまり、神が「招き」「みことば」を語り、いのちの糧「聖餐」で養い、この世に「派遣」する。派遣から再び神に招かれて礼拝に集う(帰る)、その派遣から招きへの間も、私たちは礼拝で受けた恵みと祝福を携えて生きるのですから、私たちの全生涯がある意味「礼拝」そのものとなる、そんな理解です。

さて、現行式文の「奉献の部」がなくなること、とりわけ献金が「派遣」に置かれたことにご意見があまりしませんでした。ご意見があまりしなかったことには、奉献の祈り(執り成しの祈り)が混乱したり省かれたりする慣行をなくし、区別する意図もありました。

「招き」における「洗礼の想起」や言及が、未受洗者の排除にならないかというご指摘もありました。教会が教会であるのは、福音の宣教と聖礼典の正しい執行です。そのしるしが礼拝です。

「洗礼」の重要性を礼拝であり、強調されなかつたことがあり。しかし私たちは、常にこの原点に立ち返る必要があるのではないですか。それがこの提案です。神は、すべての人を、まず悔い改めと「洗礼」へと招かれます。すべての人を待つておられます。続

く、礼拝全体を検討し見直すために設置された式文委員会の働き式文改訂について、日本ルター教団と共にその経過を届けたいと思います。



連載 マルティン・ルター、人生の時の時(3)

江口再起

何が起きたのか。後年、ルターはこの体験を回想しています(『ラテン語著作全集・第1巻の序文』)。それによると、大きな声では言えないが、実は「神の義」ということを、ル

努力し、がんばる。しかし、いくらがんばっても「怒りの神」の前では人は安心できない。神への信仰の不全感が増すばかり。ところが塔の一室でローマ書17節を読んでいたら驚くべきことが記されていた。「福音には、神の義が啓示されている。それは始めから終りまで信仰を通して実現される。つまり、「神の義は『呪い』でなく、『福音』で書いてある。目からウロコが落ちた。開眼。どういうことか。神は『怒りの神』ではない。いやそれどころか、それが『救い』というこ

となのだ。神は「怒りの神」でなく、「恩寵の神」である。神への信仰の不全感はなく解消し、いやそれどころか、ルターはほんとうの意味での神との一体感を感じたのです。信仰の確立です。以上が「塔の体験」の中身です。神は「恩寵の神」である。まさに「恵みのみ」です。それがすべてです。このことをルター教会では「信仰義認」と呼んできました。しかし、考えてみれば、より正確には恩寵義認、と言うべきでしょう。(つづく)

新任教職あいさつ



甲斐友朗(かいともあき) 赴任先が 決まる前 私はある召 天された牧



関 満能(せきみつひで) 全国諸教会 の皆様、3月 に按手を受 け、この4月



渡邊克博(わたなべかつひろ) 4月より 浜松教会と 浜名教会へ 赴任するこ



渡辺高伸(わたなべたかのぶ) この春か ら新靈山教 会の牧師と なります。渡

師のご伴侶から、その先生が使われていたというスツールをいただきました。そして赴任先が発表になりました。するとそこは、その先生が牧師として働かれていた場所だったのです。私はいま、シオン教会が、神様が私に用意してくださった任地だということを感じています。この今の思いを忘れず、与えられた地で精いっぱい神様の愛を宣べ伝えていきたいと思

から水俣教会と八代教会に赴任します。関満能です。とうとう牧師となる日が来しました。しかし、牧師となると言ってもこれからが牧師とされていく日々が始まります。今、私の心に響いている言葉は、「福音のためなら、わたしはどんなことでもします」というパウロの言葉です。教会と地域社会に生きる人々と共に福音の喜びを分かち合う牧師とされたいと思

お詫びと訂正 3月号の記事につきまして、筆者の意図とは異なる編集を行い、確認が十分でないまま発行してしまいました。筆者の松木傑牧師と読者の皆さんにご迷惑をおかけしたことをお詫び致します。以下、該当箇所を訂正します。 3月号1面4段1行「一見すると同じですが、99.9%神様の絶対に従うことと、それを100%とし、理性を無視する態度には大きな違い」を「一見すると同じですが、99.9%理性を尊重し、0.1%の神様の絶対に従うことと、理性を無視する態度には大きな違い」と致し

九州地域教師会報告



九州地域教師会会長 杉本洋一

九州地域教師会退修会が、2月16〜17日、熊本教会を会場にして行われた。会員21名中、19名が出席した。

今回のテーマは、「ルター教会と信仰義認、そして、日本人」。それは、歴史的に宗教改革を経験していない国の教会として、宣教に遣わされた場所、どのように、神の言葉を伝えていくのかという問題意識に立つてのことである。来る2017年の宗教改革500年を意図してのことである。信仰義認を根幹に据える教会が、この世とこの地域において、どのように、共に歩んでいけるかということである。これは、九州で宣教が開始されてからずっと持ち続けている宿題でもある。

九州地域教師会では、昨年の夏、中国教会を訪問する貴重な機会を得た。退修会では中国を訪問した全員がそれを報告し、出席者と分かち合った。中国教会は、いくつかの信条を持つ私たちのルター教会とは、対極にある教会ともいえるだろう。教派性を持たない教会であり、主の祈りと使徒信条のみ信仰告白文書として重視する教会である。

訪問プログラム参加者一人一人の体験の発表は、広範囲な気づきを与えられる機会となった。礼拝について、典礼の上でも自由に行われているという感想が多く、国家を中心とする教会というあふれる若者の姿を目の当たりにして、率直な驚きの感想が報告された。中国は中国、日本は日本ということも、軽々には言えない中、励まされた部分も多かった。途中の休憩時間も惜しんで報告することができたと思う。

第7回 教会推薦理事研修会 報告

事務局長 白川道生

1月12日、ルーテル市ヶ谷センターにて標記研修会が開催された。出席者は、JELC(宗教法

を考える研修とした。基調講演として、山本誠さん(聖霊福祉事業団)により「創業の祈りの表現に向けて」人の力と理念の力」と題されたお話しを伺った。以下、その講演の内容の要約をもって、研修報告とする。

それを囲む2重の円はイエス洗足の桶を表している。創立者の長谷川保は、浜松聖隷病院の開所式でこう祈った。「今日ここにこの病院を神にささげます。もし、事業が御心になわなくなったならば、この病院をつぶして下さい。」長谷川は衆議院議員として憲法の成文に関わった。有名なのは第25条。「すべての国民は、健康で文化的な」との水準の定義に「文化的な」を押し込んだとの逸話が残されている。さらに、「制度では救えない人のために」第13条「幸福追求」の権利を意識して、必要に応じて次々と働きを興していった。

2年後、「隣人愛」に、使命・ビジョン・職員行動指針から構成された説明が全職員に配布された。キリスト教を土台とする法人の理事長にノンクリスチャンを選ぶことを危惧する意見もあったそうだが、研修体系を厚くし「係長以上の職員は理念を明確に語る」というように努めているとの紹介が、出席者の心に残った。

公告

この度、左記の行為を致しますので、宗司法人法第23条の規定に基づき公告致します。
2015年4月15日
宗司法人
日本福音ルーテル教会
代表役員 立山忠浩

7回目を数える今回は、「教会推薦理事は創立の精神を継承する役目を担い、またそのために創立目的(出発の祈り)の完成を目指して実践する」との視点から理事等の役割

聖隷福祉事業団は1930年に創立され、全国1都8県で139施設286事業を運営する日本最大の社会福祉法人。職員1万3326人。年度決算額99.9億円。

そのための、後世の評価には、独断と言われる声も存在する。競馬や競輪の益金から資金を得て、事業を作ってきたのも長谷川が始めたことである。批判に対しては「祈ってから使えはいい」と応じ、「隣人愛」に尽力した。

現在3代目の理事長。ノンクリスチャンであるが故に、理念の「隣人愛」について、「この言葉だけでは分らない」と悩み抜き、「聖隷の理念」が読んでわかるような表現とするために、特別のチームが組まれた。そし

日本福音ルーテル教会 2015年度人事

(敬称略/50音順)

○引退

(2015年3月31日付)

- ・鐘ヶ江昭洋
- ・佐々木赫子
- ・鷲見達也
- ・松木 傑
- ・吉谷正典
- 新任
- ・甲斐友朗

【北海道特別教区】

該当なし

【東教区】

・青田勇

東京池袋教会、事務局層財室長(兼任)

・太田一彦

仙台教会、鶴ヶ谷教会

・小勝奈保子

聖パウロ教会

・後藤直紀

板橋教会、

東京教会(兼任)

○異動

(2015年4月1日付)

・関 満能

・渡邊克博

・渡辺高伸

【東海教区】

・立山忠浩

・都南教会

・内藤文子

掛川・菊川教会(主任)

・渡邊克博

浜松教会、浜名教会

・渡辺高伸

新霊山教会

【西教区】

・甲斐友朗

シオン教会

・滝田浩之

三原教会(主任)、

福山教会(主任)

・竹田大地

宇部教会(主任)

・松本義宣

○休職

・後藤由起

(2015年4月1日付)

○その他

▽任用変更

(2015年4月1日付)

・小勝奈保子

・後藤直紀

(嘱託用か一般任用)

▽宣教師

(2015年3月31日付)

【J3プログラム退任】

・キャロリン・キーン

九州学院中学・高校

・モーガン・ディクソン

ルーテル学院中学・高校

・ローラ・フェントレス

ルーテル学院中学・高校

▽教会委嘱

(2015年4月1日付

1年間)

・明比輝代彦

富士教会

・佐々木赫子

松山教会

・白髭 義

二日市教会、甘木教会

・中村圭助

復活教会

・藤井邦夫

宇部教会

・横田弘行

掛川・菊川教会

・渡邊 進

沼津教会

現在3代目の理事長。ノンクリスチャンであるが故に、理念の「隣人愛」について、「この言葉だけでは分らない」と悩み抜き、「聖隷の理念」が読んでわかるような表現とするために、特別のチームが組まれた。そし

地番 169番6
地目 宅地
地積 31・90㎡
地番 169番7
地目 宅地
地積 53・11㎡

理由、通学道路拡張のために小城市に教会用地の一部を売却するため。